

## 旧平沼寛一郎邸(飯能市)

2014年9月 訪問  
埼玉モダンたてももの学生レポーター  
法政大学人間環境学部 吉田 奈津美



建てられたのは、なんと明治20年代後半から30年代初期の頃。細部にわたりこだわりがみられる建物です。

現在はこの建物で軽食と喫茶のお店をOPENしており、土・日曜日の11時から16時まで営業しています。(12月から2月上旬まではお休み)  
メニューはずりあげうどん！サバの水煮の缶詰めとの相性が絶妙だそうです。

これは名栗の郷土めし「しばづと」です。お赤飯のおにぎりをほう葉で包んだもの。ほう葉には殺菌作用があり、おにぎりが腐り難くなるそうです



## では、内部を紹介します!!

### 凝っているガラス

一番左の色ガラスは本当は8枚ありましたが、自然に割れてしまったため、現在の所有者の奥様が修繕したものです。よく見るとこのガラスは歪んでいるんです。明治時代の技術だと歪んでしまうのだそうです。他にもレースのようなガラスや、木でデザインした欄間のガラスも見事！

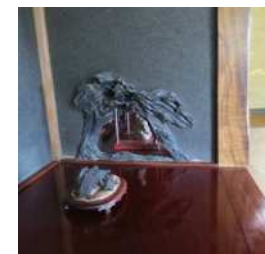


### 銘木がたくさん

何かの形に見えますが、自然のままの木を利用しています。特に狎くぐり(ちんくぐり)は、一般的には正方形や長方形なので非常に珍しいそうです。



欄間



狎くぐり



随所に見られる昔の人の知恵



開くと…



重厚な金庫の扉の内側を開けると、購入日や購入金額等が記載されています。昔の人のモノへの愛着が伝わってきます。

この金庫のある隣の部屋には鍵がたくさんついています。全て違う形でおもしろいですよね♪



長押（なげし）に金具を入れて蚊帳をつるしたそうです。



障子は栓を抜くと内側の枠を外せるようになっています。涼しく過ごすための知恵です。



電気蓄音機（電蓄）がありました！  
今でも、レコードもラジオも聞けます。  
真空管式なので、スイッチを入れてからしばらくしないと音が出てきません。  
木製キャビネットから出てくる柔らかい音に包まれて温かな気持ちになります。

## 丁寧な装飾



雁



平沼家の家紋、下がり藤



鶴

これらは釘隠しです。  
部屋ごとに違う形を  
しています。



障子の下にも細かな  
心遣いが！  
閉じた扇子の形を  
しています。



この天井は格天井と呼ばれ  
るものです。一般にはお寺  
や神社の天井に用いられて  
います。  
普通の民家にあるのは珍し  
いそうです。



違い棚の脚や角にも細かな彫刻が  
施されています。

ふすまやたんすの引き手も非常に凝っています！



旧平沼寛一郎邸は時を忘れさ  
せる空間でした。  
細部までこだわりがあり、見  
ていると時間がたつのがあっ  
という間です。  
木の家は生きていて、年月と  
ともに強くなっていくそうで  
す。そのような古民家の良さを  
ぜひ知ってください。

夏の庭には岩松が茂っており、山  
の景色と合わさって、季節により  
様々な顔を見せてくれます。自分  
の目で味わってきてください。